

肝炎医療コーディネーターへの効果的な啓発を目的としたアンケート調査

研究分担者 四柳 宏 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 感染症分野教授

研究要旨

【背景】

厚生労働省研究班で作成した感染対策ガイドライン（一般生活者向け・保育施設勤務者向け・老人保健施設勤務者向け）を肝炎医療コーディネーターに役立つものにすることが本研究班にとって大切である。

【方法】

肝炎医療コーディネーターが対応に苦慮する可能性のある感染対策について質問紙を用いたアンケート調査を行った。アンケートを集計して結果をまとめた。

【結果】

11 都道府県の 952 名（看護師 376 名、保健師 218 名、事務職員 80 名、その他 278 名）から回答が寄せられた。

患者さんから寄せられた質問としては、1) B 型肝炎への感染は日常生活（感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする）で起きますか？（29%）、2) C 型肝炎への感染は日常生活（感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする）で起きますか？（22.5%）、3) C 型肝炎の抗ウイルス薬治療を受け、医師からはウイルスは消えたと言われましたが、“治った”ということでしょうか？（20.6%）の順であり感染性に関わるものが多かった。

また、尋ねられると困る質問としては 1) 職場や学校で偏見・差別にあっています。どうしたらよいでしょうか？（40.2%）、2) 自分は B 型肝炎キャリアです。家族にワクチンを打った方がよいでしょうか？（33.6%）、3) 子どもが C 型肝炎に感染しています。保育園／学校に話した方がよいでしょうか？（32.1%）で差別・偏見と感染性に関するものが多かった。

ウイルス肝炎ガイドラインに関しては“参考にしたことがある”と答えたのは 12.2%であった。

【結論】

肝炎ウイルスの感染性などに関して現場に即した資料が必要である。（これに基づいて資料の作成を行った）

A. 研究目的

本分担研究者（四柳）が 2012 年度から 2014 年度まで主任研究者を務めた“集団生活の

場における肝炎ウイルス感染予防ガイドラインの作成のための研究班”では一般生活者・保育関係者・老人施設関係者に対するガ

イドラインを作成した。このガイドラインは厚生労働省・肝炎情報センターのウェブサイトに掲載され、活用されていることが期待されるが、肝炎医療コーディネーターが使用することを念頭に作成したものではない。従ってコーディネーターのニーズを満たすガイドラインに改定することが望ましい。そのための調査として昨年度コーディネーターに対して行ったアンケート調査の結果をまとめることとした。

B. 研究方法

ガイドラインに書かれた内容をもとにアンケート調査案を作成し、班員（江口有一郎研究代表者・岩根紳治事務局員・八橋弘班員・米澤敦子班員）の協力のもと調査票を作成した。調査票は研究班の班会議で開示し、協力を要請した後、班員の所属する拠点病院に送付し、現場のコーディネーターへの配布を依頼した。

作成したアンケート案を（図1）に示す。コーディネーターの職業は多種多様であり、職種による肝炎の感染経路に対する認知状況を知るために職種を記入して頂く設計にした。

感染経路に関しては実際に患者さんに尋ねられたことがあるか、尋ねられたら困るか（正確な知識を持ち、説明できるか）の2つに関して質問した。質問項目に関しては、感染経路そのものに対する知識に加え、対応によっては偏見・差別の原因になる事項を盛り込んだ。

（図1）

ウイルス肝炎の“感染”に関するアンケート

ウイルス肝炎の“感染”に関するアンケート

肝炎医療コーディネーターの方の研修用に使って頂く教材（できればウェブなどで使っていただけるもの）を作成しようと思っております。
つきましては以下のアンケートにご協力頂ければ幸いです。
アンケートに関しては、江口班（佐賀大学）で回収し、施設情報・個人情報等を削除し、集計致します。締め切りは2018年3月15日とさせていただきます。
なお、このアンケートは肝炎医療コーディネーターの方がお答えください。

- (1) あなたの所属する施設のある都道府県をお書きください。
() 都・道・府・県
- (2) あなたの職種は何でしょうか。該当するものに○をつけてください。
1 看護師（医院・病院・職域・その他()）(病棟・外来・その他())
2 保健師（職域・県・市町村・その他())
3 事務職員
4 その他()
- (3) “あなたが患者さんから尋ねられた時に困る”もの、“実際に患者さんから尋ねられたことがあるもの”に○をつけてください。

項目	患者さんから尋ねられた時に困る	患者さんから尋ねられたことがある
例 あなたの年齢はいくつですか？	○	
1 B型肝炎への感染は日常生活（感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする）で起きますか？		
2 C型肝炎への感染は日常生活（感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする）で起きますか？		
3 B型肝炎で抗ウイルス薬を飲んでいる時でも他の人への感染は起きますか？		
4 C型肝炎の抗ウイルス薬治療を受け、医師からはウイルスは消えたと言われましたが、“治った”ということでしょうか？		
5 子どもがB型肝炎に感染しています。保育園/学校に話した方がよいでしょうか？		
6 子どもがC型肝炎に感染しています。保育園/学校に話した方がよいでしょうか？		

7 自分はB型肝炎ウイルスに感染しています。職場でどのようにすればよいでしょうか？		
8 自分はC型肝炎ウイルスに感染しています。職場でどのようにすればよいでしょうか？		
9 自分はB型肝炎ウイルスに感染しています。医療機関にかかる際にどのようにすればよいでしょうか？		
10 自分はC型肝炎ウイルスに感染しています。医療機関にかかる際にどのようにすればよいでしょうか？		
11 職場や学校で偏見・差別にあっています。どうしたらよいでしょうか？		
12 自分はB型肝炎キャリアです。家族にワクチンを打った方がよいでしょうか？		

- (4) 上記(3)以外に受けた質問や対応に困った事例を記載してください。
(他の肝炎医療コーディネーターに知ってほしい患者さんからの質問など)
- (5) あなたは「ウイルス肝炎感染防止ガイドライン」(下記の図)
(<http://www.kanen.ncsgm.go.jp/cont/050/robou.html>)に掲載) に関して、あてはまるものに○をつけてください。



1. 参考にしたことがある
2. 見たことがあるが参考にしたことはない
3. 名前を聞いたことはあるが見たことはない
4. 名前を聞いたこともない
- (6) その他「肝炎ウイルスの感染」についてご質問、ご意見があれば自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。
厚生労働行政推進調査事業費（肝炎等長期後援研究事業）
「肝炎ウイルス検査受検から受診、受検に至る
肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究」

研究代表者 江口 有一郎（佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター）
研究分担者 四柳 宏（東京大学医科学研究所附属病院 感染免疫内科）

アンケートは 14 都道府県の拠点病院からの配布をお願いした。2018年3月現在データ

の取りまとめを行なった。

C. 研究結果

アンケートの結果を(図2)に示す。11都道府県の952名(看護師376名、保健師218名、事務職員80名、その他278名)から回答が寄せられた。

患者さんから寄せられた質問としては、1) B型肝炎への感染は日常生活(感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする)で起きますか?(29%)、2) C型肝炎への感染は日常生活(感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする)で起きますか?(22.5%)、3) C型肝炎の抗ウイルス薬治療を受け、医師からはウイルスは消えたと言われましたが、“治った”ということでしょうか?(20.6%)の順であり感染性に関わるものが多かった。

また、尋ねられると困る質問としては1) 職場や学校で偏見・差別にあっています。どうしたらよいでしょうか?(40.2%)、2) 自分はB型肝炎キャリアです。家族にワクチンを打った方がよいでしょうか?(33.6%)、3) 子どもがC型肝炎に感染しています。保育園/学校に話した方がよいでしょうか?(32.1%)で差別・偏見と感染性に関するものが多かった。

ウイルス肝炎ガイドラインに関しては“参考にしたことがある”と答えたのは12.2%であった。

図2

アンケート結果

ウイルス肝炎の“感染”に関するアンケート(まとめ)

(1) あなたの所属する施設のある都道府県をお書きください。

回答: 11 都道府県

(2) あなたの職種は何でしょうか。該当するものに○をつけてください。

- 1 看護師 376
- 2 保健師 218
- 3 事務職員 80
- 4 その他 278

(3) “あなたが患者さんから尋ねられた時に困る”もの、“実際に患者さんから尋ねられたことがあるもの”に○をつけてください。

項目	患者さんから尋ねられた時に困る	患者さんから尋ねられたことがある
1 B型肝炎への感染は日常生活(感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする)で起きますか?	7.4%	29.0%
2 C型肝炎への感染は日常生活(感染者と一緒に食事・入浴・スポーツなどをする)で起きますか?	11.1	22.5
3 B型肝炎で抗ウイルス薬を飲んでいながらも他の人への感染は起きますか?	25.7	9.9
4 C型肝炎の抗ウイルス薬治療を受け、医師からはウイルスは消えたと言われましたが、“治った”ということでしょうか?	27.8	20.6
5 子どもがB型肝炎に感染しています。保育園/学校に話した方がよいでしょうか?	27.5	9.5
6 子どもがC型肝炎に感染しています。保育園/学校に話した方がよいでしょうか?	32.1	8.9
7 自分はB型肝炎ウイルスに感染しています。職場でどのようにすればよいでしょうか?	17.7	13.2
8 自分はC型肝炎ウイルスに感染しています。職場でどのようにすればよいでしょうか?	22.0	15.2
9 自分はB型肝炎ウイルスに感染しています。医療機関にかかる際にどのようにすればよいでしょうか?	17.9	13.6

10 自分はC型肝炎ウイルスに感染しています。医療機関にかかる際にどのようにすればよいでしょうか?	13.8	13.9
11 職場や学校で偏見・差別にあっています。どうしたらよいでしょうか?	40.2	8.4
12 自分はB型肝炎キャリアです。家族にワクチンを打った方がよいでしょうか?	33.6	11.9

(4) 上記(3)以外に受けた質問や対応に困った事例を記載してください。
別紙の通り

(5) あなたは「ウイルス肝炎感染防止ガイドライン」(下記の図)

- 1. 参考にしたことがある 140 (12.2%)
- 2. 見たことがあるが参考にしたことはない 213 (18.6%)
- 3. 名前を聞いたことはあるが見たことはない 422 (36.8%)
- 4. 名前を聞いたこともない 408 (35.4%)

(6) その他“肝炎ウイルスの感染”についてご質問、ご意見があればご自由にお書き下さい。
別紙の通り

このほか6)に記載した通り、“肝炎ウイルスの感染”に関して自由記載していただいた。結果は(図3)に示しての通りであり、家族内・親族間での感染に関する問題、性交渉に関する質問など医療者には直接尋ねにくい質問もあがっており、現場では様々なニーズがあることが確認された。

図3

質問・意見（まとめ）

質問・意見（まとめ）

- B型肝炎ウイルスは性交によって感染すると認識されているが、母子感染でのキャリア患者が確認される時があり、身を縮こませて生活しないといけない。
- 彼氏がB型肝炎治療を受けていたという女性より、女性自身の治療が必要なのか、性交もしていたのすごく心配と書かれたときどのように対応したらよいか困る。
- 高齢者の患者さんから、食事等の介護面での対応をどうすればよいか、と質問されたときどのように答えればよいか困る。
- よく「B型肝炎は水平感染をする」「父子感染もある」など聞きますが、だ液やなみだ等体液からのリスク、接触による感染のリスクはどの程度あるものなのでしょうか？またキャリアのお子さんを乳幼児施設に入れる時、注意すべきことが知りたいです。
- パートナーがB型肝炎です。結婚を考えると、肝炎の可能性はあるのでしょうか？
- 性行為により肝炎となられた可能性のある20代の患者さんがいました。急性肝障害で精密検査しわかりました。生活のことなど疑問や不安などがあられたと思いますが重症化は心配はできませんでした。同性の医師に相談していただきました。感染し、特に若い患者さんは若いときや聞きにくさがあり年齢も近いと関わり方が難しいと感じます。
- O型肝炎の80歳の女性の方ですが、お孫さんに会いたげどお孫さんが「肝炎が子供にうつるので家に来てほしくない」と書かれたとのこと。この様なケースの場合、どのように家族指導をするべきなのか悩んでいます。無理に私が説明に家族間に立ち入るのもどうかと思っております。
- 肝炎ウイルスの感染については一般的な生活での感染はないと理解し、そのように答えているが「本当に大丈夫か」と聞かれると100%感染しないとは言い切れないため、逆に質問者に不安を与えているのではと思うことがある。
- 日本では宴会の席でお酒を回し飲みで飲み交わす風習がありますが、それで感染する可能性はありますか
- 産科医院を閉業しています。B型肝炎・O型肝炎既往を問診票に記入していただけないことが多いです。また、美容師科の衛生管理の授業をしていますが美容師国家資格では感染症は学科試験にあり、学生も勉強していますが美容室内で肝炎について気を付けている姿は見ることがありません。そういうごく普通の生活への配慮が双方向に必要だと思う。
- ウイルス感染に性感染もあるため説明の仕方が難しいと感じる。
- 保育の現場で予防意識がない人に出会いました。（血液を素手で触る）自分たちの教育が行き届いていないこともあると思うが、保育に関わる人々は出血の手当も多いので意識づけが必要だと感じました。
- 一年間の質問をまとめたQ&Aのようなものがあると業務の際に参考になるかもしれない。
- 産科クリニックで肝炎対策の標準対策ができていないところが少なくないので医療従事者や患者に感染しないか心配。

D. 考察

対象となる14都道府県中11都道府県から回答があり、1000人近い人から相談を頂いた。

感染性の問題に悩んでいる感染者は多い。前述の通り日常生活における感染性に悩んでいる感染者は多い。周囲の人へ迷惑がかからないようにと患者自身が悩んでいることがうかがえた。

コーディネーターに対する質問としては日常生活の場における第三者への感染に加え、祖父母から孫への感染、パートナー間での性交渉に関する感染性などデリケートな質問が挙げられた。こうした質問がコーディネーターに投げかけられたことがあることが想定され、適切な回答を探すのに苦慮する質問である。

こうした質問に答えるためにQ and A集の

作成を行っている。今後はこの冊子の効果を検証していく必要がある。

E. 結論

コーディネーターが患者および家族を指導するために、感染性を中心にまとめたわかりやすい資料の作成が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし

